2025 年～2035 年の化粧品油剤世界市場と日清オイリオの世界シェア拡大シナリオ

OpenAI Deep Research

世界市場の規模と成長予測

化粧品油剤（コスメティックオイル）の世界市場規模は 2024 年時点で約 **70 億米ドル**と推定されます（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）。近年はナチュラル志向の高まりやオーガニック美容オイル需要の拡大により、市場は堅調に成長しています。**2025 年～2035 年にかけて年平均成長率（CAGR）は約 5～6%と見込まれ、このペースが持続すれば 2035 年には市場規模が約 140 億米ドル規模**に達すると予測されます（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）。以下の表に市場規模推移の一例を示します。

年度	世界市場規模（米ドル）	備考
2024 年	70 億ドル	現在（推定）（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）
2030 年	約 102 億ドル	予測（CAGR ~6%）
2035 年	約 140 億ドル	予測（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）

この成長は**自然派・高機能な美容オイル製品の需要拡大**によって牽引されています（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）。特にココナッツオイル、ホホバオイ

ル、アルガンオイルなど植物由来のオイルは保湿・抗炎症などの効果で人気が高く、スキンケアからヘアケアまで幅広い用途で需要増が続いています（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）。また、**合成成分を排除したクリーンビューティー志向**やセルフケアブームにより、フェイシャルオイルやボディオイルなど**美容オイルを日常に取り入れる消費者が増加**しています（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）。以上のトレンドにより、今後も世界の化粧品油剤市場は安定した成長が見込まれます。

主要企業の市場シェアと競合分析

化粧品油剤の供給市場は多様な企業が競合する分散型の市場ですが、**大手化学メーカーから専門オイルサプライヤーまで**主要プレーヤーが存在します。特に BASF、**クローダ（Croda）、エボニック（Evonik）といった企業は化粧品原料分野で世界トップクラスの存在感を持ちます（The TOP 100 most popular Cosmetics Ingredients suppliers on SpecialChem in 2024）。これら欧米大手はエモリエント（保湿油剤）を含む広範な原料ラインナップとグローバルな販売網を有し、市場シェア上位を占めています。一方、日清オイリオのように油剤分野に特化した専門メーカー**も高品質な製品で一定のシェアを確保しています。

主要企業の市場ポジションと強み・弱みを以下の表にまとめます。

企業名	世界シェア（推定）	強み（Strengths）	弱み（Weaknesses）
BASF	10～15%程度と推定	原料ポートフォリオが幅広く、世界中に展開する販売網と高い研究開発力。特に合成エステルから天然油まで網羅し市場で確固たる支配力（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）。	製品ラインが広範な反面、特定ニッチ分野への対応で俊敏性に欠ける可能性。天然由来成分志向へのさらなる対応が課題との指摘もあり。

企業名	世界シェア（推定）	強み（Strengths）	弱み（Weaknesses）
クローダ	約 10%と推定	エステル油剤や植物由来オイルなど高機能・高付加価値原料に強み。イノベーション志向が強く、サステナビリティ（持続可能性）を重視した製品開発で評価が高い。	企業規模は BASF など最大手に比べ小さく、原料カテゴリーも専門性が高い分、汎用原料では価格競争力で劣る場合がある。
エボニック	8～10%程度と推定	高度な化学合成技術に基づく特殊エステル類やシリコーン代替油剤などで実績。グローバルに展開し、大手化粧品メーカーとの関係も強固。	事業領域が機能性成分にも及ぶため油剤専業ではない。製品ラインの広さは BASF ほどではなく、特定分野での競争は激しい。
日清オイリオ	約 9%（Integrated Report 2024）	50 年以上にわたり培ったエステル合成技術を背景とする高品質・高安定性の化粧品油剤が強み。国内外の化粧品メーカーから厚い信頼を獲得し、世界シェア約 9%に到達（Integrated Report 2024）。技術サポート力も高く、顧客の要望に応じた提案が可能。	グローバル知名度や企業規模の点で欧米大手に劣る。製品ポートフォリオが油剤中心であり、他の化粧品原料分野（例えば活性成分や界面活性剤）を網羅していないため提案範囲が限定的。海外展開は進めているものの、地域によっては販売チャネル構築がこれからの課題。

備考: 上記シェア数値は公開情報や市場規模からの推定。BASF や Clariant は**「純粋で完全に自然な化粧品製品の主要サプライヤーとして確固たる支配力を確立」**しており（〖調査レポート〗 世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）、BASF・クローダ・エボニックはいずれも化粧品原料全体で世界トップ 3 にランクされています（The TOP 100 most popular Cosmetics Ingredients suppliers on SpecialChem in 2024）。日清オイリオは油剤分野に特化し技術力で存在感を示しています。

日清オイリオの現在の市場ポジション

日清オイリオグループは日本を代表する油脂メーカーですが、ファインケミカル事業として**化粧品向け油剤原料**の供給にも注力しています。同社の化粧品油剤ビジネス

は、直近年度（2023 年度）実績で**売上高約 188 億円**規模に達しており、これはグローバル市場において**約 9%のシェア**に相当します（Integrated Report 2024）。このシェアは同社が長年培ってきたエステル合成技術や品質安定化技術により、国内外の大手化粧品メーカーから信頼を得ていることに支えられています（Integrated Report 2024）。

日清オイリオの**地域展開**を見ると、売上の約 **40%は海外市場**から生み出されており、日本国内 60%・海外 40%の構成です（Integrated Report 2024）。国内では資生堂や花王など日系メーカー向けに安定供給しつつ、海外ではアジア（特に中国・東南アジア）や欧米の化粧品メーカーにも原料を提供しています。近年、**上海に技術サポート拠点を開設**するなど、中国市場での顧客支援体制を強化しグローバル展開を加速しています（Integrated Report 2024）。

主要製品カテゴリとしては、エステル油剤（合成エステル系のエモリエント油剤）が同社の得意分野です。例えば**中鎖脂肪酸エステル（MCT 油）や各種高純度エステル（肌触りや安定性に優れるベース油）を 50 年以上にわたり開発・供給してきた実績があります。また植物由来のスクワランやホホバ油などの天然油脂系原料**も扱い、近年は独自技術による酸化安定性の高い植物油の開発に注力しています。実際、**超酸化バリア製法「Neo NatuMade 法」**といった独自技術を用いて、高品質で機能性のある化粧品油剤を提供する取り組みも進められています（Integrated Report 2024）。これにより天然オイルでありながら酸化しにくい原料など、他社差別化できる製品群を展開しています。

総じて日清オイリオは**「油剤のスペシャリスト」**として、エステル油剤を中心に信頼性の高い製品ラインナップを築いており、国内トップクラスかつグローバルでも有数のポジションを占めています。

日清オイリオの将来予測と成長戦略（～2035 年）

今後 2035 年に向けて、日清オイリオの化粧品油剤ビジネスは**市場成長を上回るペースで拡大する余地**があります。同社も中期計画で「グローバル市場シェア 10%以上」を目標に掲げており、引き続きシェア拡大を目指す見通しです。以下では**地域別・分野別**の成長戦略と将来予測について述べます。

地域戦略: アジア市場、とりわけ**中国**を最重要市場として位置付ける戦略が予想されます。中国の化粧品オイル市場は 2024 年に約 12 億ドル規模と推定され、**年平均**

8.8%という世界平均を上回る高成長が見込まれています（〖調査レポート〗 世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）。この成長市場を確実に取り込むため、日清オイリオは前述の上海技術センターを活用し**現地顧客への迅速な技術提案・サポート**を強化しています。さらにアジア新興国（東南アジアなど）でも需要開拓を進めるでしょう。同社は「アジアを中心に欧米まで含めたグローバル市場への販売拡大」を掲げており（Integrated Report 2024）、欧州・米国についても代理店網の拡充や現地法人の活用により顧客基盤を広げる戦略です。特に北米市場は未開拓余地が大きく、食品油での北米展開の流れを活かして**米国のパーソナルケア市場参入**を図る可能性があります。

製品・分野戦略: 製品面では**「高機能×天然」をキーワードに開発が進む見通しです。すなわち、グリーン美容の潮流に沿った**天然由来率の高い油剤**を増やしつつ、同社の技術で付加機能を持たせた原料開発を強化すると考えられます（Integrated Report 2024）。具体的には、エステル化技術で**植物油に機能付与（例：べたつき低減や浸透性向上）**を行った新製品や、肌のバリア機能改善・抗老化など**用途別の機能性オイル**の開発が挙げられます。実際、日清オイリオは「特殊オイルの潜在機能を発掘し、高ナチュラル志向の製品を展開する」との方針を示しており（Integrated Report 2024）、例えば MCT オイルの新たな美容用途提案など機能訴求型の製品開発が予想されます。また持続可能性（サステナビリティ）も重要なテーマであり、パーム油代替やアップサイクル原料の活用など環境配慮型の油剤開発にも注力するでしょう。これらの取り組みにより、高付加価値品のポートフォリオを拡充し収益性向上を図る戦略です。

以上を踏まえると、日清オイリオの化粧品油剤売上高は**今後 10 年間で倍増規模**になる可能性があります。現在 188 億円規模から、2030 年前後には 300 億円程度、さらには 2035 年に 400 億円超となり世界シェアも 10%台に乗せるシナリオがベースラインとして期待されます。次章では、このような将来像について**楽観・中立・悲観のシナリオ別**に分析します。

日清オイリオの世界シェア拡大シナリオ分析

日清オイリオが化粧品油剤分野で世界シェアを拡大していく将来像を、**楽観（オプティミスティック）・中立（ベースライン）・悲観（ペシミスティック）の 3 つのシナリオで検討します。それぞれのシナリオにおける**予想売上高および**世界シェア（2035 年時点）**を下表にまとめました。

シナリオ	2030 年売上高（化粧品油剤）	2035 年売上高（化粧品油剤）	2035 年想定世界シェア
楽観 🌟	約 350 億円	約 600 億円	約 15%
中立 ⚖️	約 280 億円	約 400 億円	約 10%
悲観 🌧️	約 230 億円	約 280 億円	約 7%

- **楽観シナリオ**: 世界的なクリーンビューティー需要の拡大を追い風に、日清オイリオが積極的な設備投資・M&A・新製品投入を行い、高成長を遂げるケースです。年率 10%以上の伸びで売上規模を 2035 年までに現在比 3 倍以上に拡大し、**世界シェア 15%前後**とトップクラスの地位に躍進する可能性を描きます。具体的には、有望スタートアップや海外油剤メーカーの買収により製品ラインを拡充し、中国・米国など主要市場でシェアを大きく伸ばす展開です。この場合、日清オイリオはグローバルで BASF やクローダに匹敵する存在感を示すことになるでしょう。
- **中立シナリオ**: 現状の延長線上で堅実に成長するケースです。市場の成長率（約 5～6%）をやや上回る年率 7%程度の成長を維持し、**2035 年に売上約 400 億円・シェア 10%超**を達成すると想定します。地道な新製品開発と顧客拡大によりシェアは若干向上しますが、競合他社も相応に成長するため、シェア上昇は限定的です。このシナリオでは日清オイリオは引き続き油剤分野で堅実な**ニッチリーダー**として機能し、市場全体の成長と歩調を合わせて規模を拡大していきます。
- **悲観シナリオ**: 競合激化や戦略の失敗により、成長が市場平均以下にとどまるケースです。例えば、新興国ローカルメーカーや他分野から参入した競合にシェアを奪われ、年率 3～4%程度の低成長に甘んじる状況です。この場合、**2035 年売上は 300 億円弱、シェアも 7%程度**に低下し、現在よりシェア後退する可能性があります。要因としては、主力のエステル油剤がコモディティ化して価格競争に晒されたり、グローバル展開で思うように販路を築けない、といったリスクが考えられます。ただし市場自体は拡大しているため売上絶対額は増加しますが、シェア面では苦戦するシナリオです。

以上のシナリオ分析を踏まえると、日清オイリオが目指すべきは**中立シナリオ以上の軌道**に乗ることです。すなわち市場平均を上回る成長戦略を着実に実行し、**2030 年代前半には世界シェア二桁（10%以上）を確保する**ことが鍵となります（Integrated

Report 2024)。幸い、同社には長年の技術蓄積と信頼関係という強みがあり、それを活かして高付加価値・差別化戦略を取れば楽観シナリオに近づく余地も十分あります。一方で油剤分野は競合も多いため、引き続き顧客ニーズに即したイノベーションとグローバル展開力の強化が求められるでしょう。

総括: 化粧品油剤の世界市場は 2035 年に向け着実な拡大が予想され、主要プレーヤー間の競争も一層激化すると見られます。その中で日清オイリオは、油剤スペシャリストとしての地位を生かしつつ、技術革新と市場開拓によってシェア拡大を図る戦略です。仮に中立シナリオ通りシェア 10%台を維持・拡大できれば、同社は 2035 年時点でも**世界トップクラスの化粧品油剤サプライヤー**の一角を占めていることでしょう。今後の動向次第ではさらなる飛躍も期待できる反面、油断すればシェア後退もあり得るため、外部環境の変化を踏まえた柔軟かつ積極的な経営判断が重要となります。

参考文献・情報源: 本レポートの分析には、日清オイリオの統合報告書や決算資料、ならびに業界調査レポート等の一次情報を活用しました（Integrated Report 2024）（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）（〖調査レポート〗　世界の化粧品用オイル市場規模（2025～2034 年）：供給源別（鉱物油、ナッツオイル、植物油、植物油）、用途別）。数字や市場予測は公開データに基づき算出しており、実際の市場動向により変動する可能性があります。各種引用箇所については該当箇所を併記しています。今後の戦略立案や市場評価の際の参考になれば幸いです。